

パラグアイのスラム  
バニャードスールにおけるスラムツーリズム・ダークツーリズムの課題と可能性

齋藤誠仁 指導教員 藤掛洋子

本研究は、パラグアイの首都アスンシオンにあるスラム、バニャードスールにおけるスラムツーリズムの意義とダークツーリズム研究におけるスラムツーリズムの意義、また、パラグアイにおける、スラムツーリズム、ダークツーリズムの可能性を考察することを目的として、「バニャードスールにおいて、ツーリズムを通して、ツーリスト（訪れる側）にどのような変化（影響）があるのか（ないのか）」、「バニャードスールにおいて、スラムツーリズムはどのような意義を持つのか」、「ダークツーリズム研究において、スラムツーリズムはどのような意義を持つのか」、「パラグアイにおいて、スラムツーリズム、ダークツーリズムはど

のような可能性を持つのか」という4つのリサーチクエスチョンについて、事例調査と事例分析を通して、明らかにしたものである。

本研究を通して、バニャードスールにおけるツーリズムは意義があること、また、ダークツーリズムにおいて、スラムを扱うことの意義、そして、パラグアイにおけるスラムツーリズム、ダークツーリズムの可能性を明らかにすることができた。

キーワード

パラグアイ、バニャードスール、スラムツーリズム、ダークツーリズム